

診療科 一般外科		分類 大腸癌：進行再発Oxaliplatin		1 / 1						
レジメンNo. 19-SG031		休薬期間 20日		最大回数 999回						
レジメン名称		★CapeOX+Bevacizumab療法								
RpNo	薬剤名/手技/コメント	1回投与量	速度指示	day(1)	day(2)	day(3)	day(4)	day(5)	day(6)	day(7)
01	持続末梢静脈維持ルートから 生理食塩液PL(フソー) 100ml ルートキープ	1瓶		09:00						
02	末梢静脈側管 点滴静注で 100ml/h/30分かけて デキサート注射液(1.65mg-0.5mL)[デ'カ'ロン] デキサート注射液「6.6mg-2mL」[デ'カ'ロン] アロキシ静注(0.75mg-5ml) 生理食塩液PL(フソー) 50ml	2A 1瓶 1瓶 1瓶		09:30						
03	末梢静脈側管 点滴静注で 90分かけて アバスタチン点滴静注用(100mg-4mL) 生理食塩液PL(フソー) 100ml 初回90分、2回目60分、3回目以降30分可、ポンプ使用。	7.5mg 1瓶	/kg	10:00						
04	末梢静脈側管 点滴静注で 125ml/h/120分かけて オキサリプラチン点滴静注「100mg-20mL」[エルプラチ] 5%ブドウ糖液 250ml ポンプ使用。	130mg 1袋	/m ²	11:30						
05	末梢静脈側管 点滴静注で 生理食塩液PL(フソー) 50ml フラッシュ	1瓶		13:30						
―― 終了 ――										
レジメンNo.	19-SG031									
レジメン名称	★CapeOX+Bevacizumab療法									
レジメン参照情報										
【併用薬】 カヘンタシン錠:2000mg/m ² /day day1夕-day15朝										
【併用薬(推奨)】 ・デキサメタゾン錠8mg day2-3										
または										
・アフレビタントカプセル:125mg day1 ・アフレビタントカプセル:80mg day2-3 ※デキサメタゾン注射液(day1)は4.95mgへ減量										
レジメンコメント(医師専用)										

(カペオックス)

CapeOX+Bevacizumab療法について

CapeOX+Bevacizumab療法とは、ゼローダ(カペシタビン)という内服薬と、オキサリプラチンとアバスチン(ベバシズマブ)という注射薬を組み合わせた治療です。

標準的には3週間をひと区切り(1サイクル)として治療を行います。副作用や血液検査の結果によっては、治療の間隔が長くなることがあります。

《標準的な治療スケジュール》



《1日の治療の流れ》

薬の名称 (成分)	薬の作用 (注意事項)	時間
①内服薬 アプレピタントカプセル	吐き気止め (治療の当日は125mgを飲みます)	点滴 開始前
②注射薬 生理食塩液	点滴で薬を入れる血管を確保する	
③注射薬 アロキシ (パロノセトロン塩酸塩) デキサート (デキサメタゾン)	吐き気止め アレルギー予防	約30分
④注射薬 アバスチン (ベバシズマブ)	がん細胞の増殖を抑える (アレルギー反応が出ることがありますので、 発疹が出る、息苦しい、寒気がするなどの 症状が出たらすぐに医師または看護師へ 伝えてください。また、血圧が高くなる ことがありますので、定期的に自宅で血圧 を測定してください。)	約90分 問題なければ 2回目 60分 3回目以降 30分
⑤注射薬 オキサリプラチン	がん細胞の増殖を抑える (手足や口のまわりにしびれや痛みが 出ることがあります。血管の痛みを 和らげるため、注射薬を温めて 投与します)	約120分
⑥注射薬 生理食塩液	点滴管の中の薬を全て体の中に入れる	約5分

《ゼローダの服用方法》

薬の名称	薬の写真	薬の作用	飲み方
ゼローダ錠 300mg	 包装形態 錠剤	がん細胞の 増殖を 抑える	点滴投与日の夕食後から 15日目の朝食後までの 2週間 、決められた錠数を朝食後と夕食後に 飲んでください。その後、次の点滴投与日までの 7日間はお休みになります。治療が延期となった 場合は薬が残っていても飲まないでください。

《点滴の翌日から飲む薬》

予め医師から処方された吐き気止めを指示どおりに飲みましょう

薬の名称	薬の写真	薬の作用	飲み方
アプレピタント カプセル80mg	カプセル剤	吐き気止め	点滴の翌日から2日間、 朝食後に1カプセル飲んでください。

《主な副作用》

吐き気（悪心）・嘔吐

吐き気止めの飲み薬と注射薬を予防的に使用しますが、それでも吐き気（悪心）や嘔吐の症状があらわれることがあります。治療当日に多い症状ですが、翌日以降にみられることもあります。症状が強い場合は、次回に吐き気止めの薬を調節することができますので、医師に相談しましょう。

□対策1：なるべく水分をとるようにしましょう。

□対策2：食事は消化の良いものを少量ずつ数回にわけて食べるようにしましょう。

末梢神経障害(手足のしびれ)

オキサリプラチン投与後すぐに、手足や口のまわりにしびれや痛みがあらわれることがあります。はじめは早期に回復することが多いですが、徐々に回復しにくくなります。「ボタンをかけにくい」「歩きにくい」などの症状が強い時は、抗がん薬の投与量を減らしたり、治療をしばらくお休みすることがあります。

□対策1：治療中はからだを冷やさないようにし、冷たいものに触れるのは避けましょう。

□対策2：冷たい食べ物や飲み物は控えるようにしましょう。

手足症候群

ゼローダ内服後、手足が赤く腫れヒリヒリ・チクチクするような症状があらわれ、痛みを伴うことがあります。

□対策1：市販の保湿剤、または予め医師から処方された薬を手足に十分に塗布しましょう。

□対策2：体を締め付けるような服装や、「片手で長時間、重い荷物を持つ」

「きつい靴を履く」などの手足に負担がかかる行動は避けましょう。

下痢

腸の粘膜が薬により障害を受け、下痢が起こることがあります。下痢が続くと脱水症状になりやすいので注意が必要です。水様性の下痢が続く場合はゼローダの内服を中止し、病院へ連絡して下さい。

□対策1：なるべく水分をとるようにしましょう。（スポーツドリンクや経口補水液など）

□対策2：食物繊維、脂肪分の多い食べ物、牛乳や乳製品、香辛料や炭酸飲料などの刺激物を避けましょう。

□対策3：定期的に体重を測定して、からだの変化をチェックするようにしましょう。

感染症

血液の成分のひとつに、白血球があります。白血球は身体を細菌から守る役割をしています。しかし、治療によって白血球の減少がおこるため、細菌やウイルスに対する抵抗力が弱くなり、感染症にかかりやすくなります。白血球は治療後1～2週間で最も低くなりますが、その後、少しずつ回復していきます。

まずは日常生活で感染を予防することが大切です

□対策：手洗いうがいをこまめに行いましょう。また、人ごみに出るときにはマスクをしましょう。

《副作用が出始める時期》※これらの副作用が全て出るということではありません。

吐き気・嘔吐、末梢神経障害、高血圧
点滴部位の痛み、アレルギー反応

末梢神経障害、手足症候群、高血圧
頻尿、感染症、下痢、口内炎、脱毛

末梢神経障害、頻尿
手足症候群、高血圧

治療中、当日～数日

数日～数週間

数週間～数か月